

# EUの地方創生

全国市長会欧州都市行政調査団 団長 美馬市長（徳島県） 牧田久

## 欧州都市行政調査団参加にあたり

今回の欧州視察団に参加させていただき、出発前にはマレーシア航空機事件や、ロシアとEUの厳しい国際状況、そして止まらないエボラ出血熱の感染拡大等、私たちに直接関係ないとは思いますが、少し心配だと感じておりました。

その上、出発に際し、団長を仰せつかり、果たしてその大役が務まるのかと心配が増幅しておりました。

そんな中で出発した視察旅行でしたが、最初にオランダのアムステルダムに到着し、ヨーロッパの町並みの雰囲気を感じながら、私のイメージとしては、ヨーロッパの各都

市は、長い歴史と伝統を誇る自立の精神に富んだ都市が多く、人々は自分のライフスタイルを大切にし、バカンス等を楽しみながら、ゆとりのある生活を送っており、とてもすばらしい歴史の遺産に安住している都市でもあるのかな、とも思っております。

しかし、今回の視察で、感じたのは、「産業を振興したい」「現状（まち）を変革したい」との情熱あふれる取り組みであり、正に「目からうろこ」でした。

EUでは2012年から2020年までに加盟各国の経済活性化と市民生活の向上を目指して、各都市で「スマート・シティ」構想が強力に推進されております。

この事業では、従来の思考を捨て、目標を達成するために、最新の技術（IT等）を

活用し、すべての過程で改善できるものは変更する等、イノベーションに徹底して取り組み、持続できるシステムを創出し、これをしっかりとマネジメントできる企画を各都市から募集し、EU委員会承認されれば、補助を行うというものであります。

また、この情報はすべてオープンにし、将来的にはこのシステムをパッケージでそのまま輸出したいとの説明も受けたところです。

余談ですが、既に「ヘーア・ヒューホ・ワードゥ市」のゼロエミッションによる都市づくり企画は、中国にそのまま輸出され、同様のまちが創られているようです。

また、「プロミネント社」の野菜工場も日本への輸出の話もある模様です。これらの事業は、まさにわが国でこれか



ら取り組もうとしている「地方創生」そのものとも言える事業であり、大変興味深いものでありました。

### オランダ・スペイン各都市を訪ねて

今回訪問いたしましたオランダの「ウエストラント市」では「農業と新エネルギー」「ヘーア・ヒューホ・ワードゥ市」では、世界最大のゼロエミッションの町と呼ばれて



バリヤドリッド市庁舎前にて

いる「都市計画」のプロジェクトを、また、スペインの「アラランダ・デ・ドウエロ市」では世界的に有名な特産品（ワイン・パン）を生かした「観光誘致施策」、そして、「バリヤドリッド市」では、京都議定書によるCO<sub>2</sub>基準を満たすため、電気自動車やLEDによるイルミネーションを活用した「観光と環境対策」についての説明を受けました。

これらの都市のそれぞれのプロジェクトは官民が一体となって推進しており、各都市の再生や市民生活の向上という明確なビジョンを持って、市長自身はもとより、プロジェクト担当者からも積極的に推進している熱意がひしひしと感じられました。

一方、われわれ視察団員も、同様な事業がこれからわが国でも実施されようとしていることもあり、非常に熱心で具体的な質疑があり、時間の足りないこともしばしばで、大変有意義な視察であったと感じました。

その一例を紹介いたしますと、ウエストラント市のプロミネント社では、ハウスでトマトの水耕栽培を行っていましたが、オランダの厳しい冬期も、常に安定的に生産量と品質を確保するため、太陽光発電や夏期の温室内の余剰熱を地下1000mの地下水層に保存する技術を活用し、エネルギーの自給自足を実現しておりました。

さらに余ったエネルギーは市街地のセントラルヒーティングシステムに供給してい

るとのことでした。

また、バイオ技術による育苗や品種改良はもとより、温室内の害虫に対する天敵の開発を行うなど、積極的にイノベーションに取り組み、生産だけではなく、マーケティングにおいても情報通信技術をフルに活用しながら、マネジメントを行っており、総合管理能力の高さに驚かされました。

そして、今後は近くのロッテルダム市からパイプラインで、いわばやっかいもののCO<sub>2</sub>



ウエストラント市内にて



ハウス内でのトマトの水耕栽培を視察

をハウス内に導入し、生産力を更に高めるプロジェクトにも取り組むとのことであり、国土の狭いオランダが、世界有数の農産物の輸出国であることに納得できた次第です。

また、ヘーア・ヒューホ・ワードウ市では、理想とする新しい都市計画プロジェクトをスタートさせ、着実に計画が進展している状況でありました。

アムステルダム近郊の都市として、住民

のコミュニケーションが保てる人口規模を10万人程度と定め、エネルギーは太陽光発電を主力に、現在稼働している風力発電機は景観を阻害するため廃止し、ゼロエミッションで、多世代の方々が混住するレクリエーション都市を建設するユニークな都市づくりでした。

次に、スペインのドウエロ川沿いの、アランダ・デ・ドウエロ市はブドウづくりに適した良質の土地と、寒暖差の大きい気候に恵まれ、古くからワイン造りが盛んな地域であり、都市全体がワインセラーとなっていると感じたほどでありました。

街には地下道のようなワインセラーが17kmもあり、世界的に有名なブランドもあるとのことでありました。

これらの資源や歴史的な建造物を利用したプロジェクトやマッピングによる街の成り立ちの映像紹介や、昔からの食文化でもてなす新しい観光施策を推進し、半年間で70万人もの観光客を増加させるなど、その成果を誇っており、それぞれの都市の特徴を生かしたまちづくりは、私たちには大変参考となりました。

## おわりに

このような時宜を得た企画をしていただ

きました、全国市長会事務局の皆さまに心よりお礼申し上げます。

そしてこの視察で、団長らしきことは何一つ果たせませんでした。何のトラブルもなく、無事帰国できたことは、団員の皆さまのご協力の賜物と感謝しております。心からお礼申し上げ、報告とさせていただきます。



アランダ・デ・ドウエロ市を訪問

